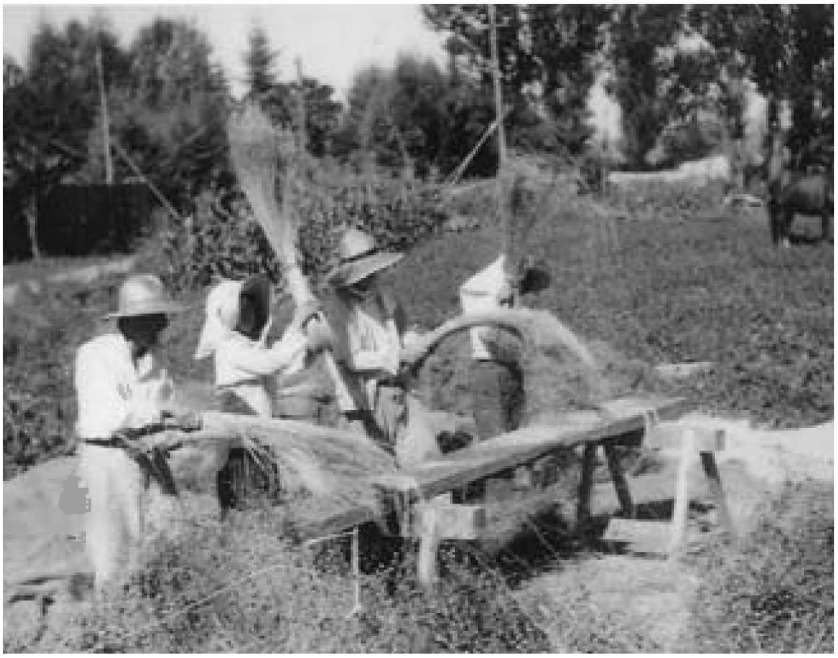
「本別農業 地域と歩んだ80年」

特別企画

第2回 亜麻工場～時を超え脚光



昭和33年、本別町内の畑で亜麻の実を落とす作業の様子

【文献・写真協力】本別町歴史民俗資料館

本別農業の「光と影」を象徴する存在として、時代に翻弄されてきた農作物――それが亜麻です。亜麻は中央アジア原産の一年草で、古代から栽培されてきました。茎から採れる丈夫な繊維はリネン（亜麻布）として通気性や吸水性に優れ、戦時下には軍服の材料として重宝されました。

かつて本別町には、道内随一の亜麻工場があり、軍馬と並んで戦争に関わったという負の側面もあります。

しかし、時代の流れとともに亜麻は再び脚光を浴びています。現在では茎ではなく、実から搾る油の機能性に注目が集まり、希少な国産アマニオイルとして人気が高まっています。

温故知新の作物とも言える亜麻。その過去と現在に焦点をあててみました。

（特別企画取材班）

全道的作物だった亜麻

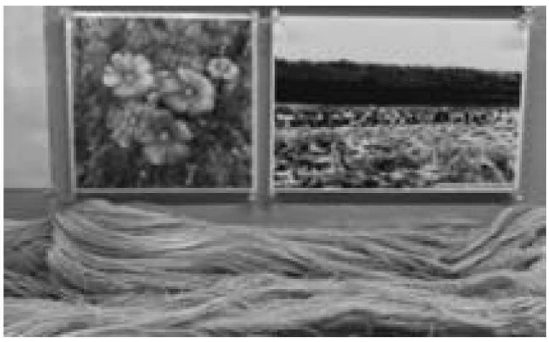
北海道における亜麻の歴史は、1868年（明治元年）にさかのぼります。札幌の開拓者・大友亀太郎氏が繊維を取る目的で亜麻の試作を行ったのが始まりです。

1874年（明治7年）には、当時ロシア公使だった榎本武揚氏から亜麻の種子が日本に送られ、北海道開拓使長官・黒田清隆氏の指示により札幌で試験栽培が行われました。

その後、1876年（明治9年）から一般農家にも広がり、十勝では約20年後、十勝開拓の先駆者である民間開拓団体・晩成社が亜麻工場を設立しました。しかし、洪水被害などにより閉鎖を余儀なくされるなど、試行錯誤の時代が続きました。

空白期を経て、1907年（明治40年）には帝國製麻株式会社（昭和16年に「帝国繊維株式会社」へ社名変更）が帯広工場の操業を開始。これをきっかけに亜麻産業は定着し、十勝管内の8市町に延べ13の工場が稼働するまでに発展しました。

十勝の作付面積は全道一を誇り、亜麻の茎から採れる繊維による産業は、1967年



資料館に展示されている亜麻の繊維

全体運 趣味が新たな交友につながります。仕事の異業種交流も吉。広く浅く何でもやってみましょう。うわさ話は避けて
健康運 足元の防寒対策を早めに準備。爪のお手入れが◎
幸運の食べ物 柿
射手座 11/23～12/21

昭和11年、天皇陛下が北海道で初めて実施された陸軍の特別大演習統監を兼ねて、道内各所行を行幸された様子

（昭和42年）の同社音更工場の閉鎖まで、約100年にわたり続きました。

繊維産業の盛衰は、戦争の影響を大きく受けました。帝國製麻㈱による原料茎の平均買取価格は、通常100ポンドあたり1円台でしたが、第一次世界大戦やロシア革命の時期には4円台にまで高騰しました。

ここで言う「ポンド」はヤード・ポンド法による重量単位で、100ポンドは約45・36kgに相当します。繊維原料の取引ではこの単位が一般的に用いられていました。つまり、当時の原料茎の価格は約45kgあたり1円（高騰時は4円）という計算になります。

この「1円」は、物価や給与水準を基に現代価値に換算すると、約2500円～4万円程度とされており、4円時には最大で約16万円相当にも達しました。軍需景気の影響で高値が続いた一方、急激な値崩れも起こり、亜麻は投機性の高い作物でもありました。

太平洋戦争中には軍服需要の高まりで価格が暴騰し、戦後の物資不足が深刻だった1949年（昭和24年）には、500円近くまで上昇する場面もありました。これは、消費者物価指数などを基に現代の価値に換算すると、約3万～5万円に相当するとされており、当時の亜麻繊維がいかに高価で重要な資源だったかを物語っています。

その後、安価な化学繊維の登場により、リネン産業は徐々に姿を消していくこととなりました。

本別から「仙美里種」誕生

本別町で亜麻の栽培が始まったのは、1913年（大正2年）頃とされています。井出日記には、「3月24日、昨日農会にて合いたる幕別製線工場の野瀬正治氏に、（前田）金四郎殿方にて再会、亜麻試作奨励のことを諾す」といった記述が残されています。

亜麻は、畑にある期間が約3カ月と短く、夏作物の中でも収穫が早いことから、裏作が可能で冷害にも強く、耕作面積は急速に広がりました。地域ごとに品質に応じて1～5等級に分けられ、等級を決める場面では激しい議論が絶えなかったとも言われています。それでも亜麻栽培が支持されたのは、お盆前に収穫でき、その年最初の現金収入につながる作物だったからです。

1917年（大正6年）には、向陽町から柏木町にかけて帝国繊維㈱本別工場が建設され、翌年から製造が始まりました。同工場で勤務していた元社員によると、社宅が整備され、社員同士のコミュニティが形成されていたほか、女性の活躍も目立ち、共働きや家族での労働が当たり前の光景だったといいます。

そうした中、仙美里地区の山田幸作さんは1929年（昭和4年）、亜麻の品種改良を重ね、「仙美里種」と呼ばれる優良品種を開発しました。従来品種より約30％の増収が見込まれ、茎の品質も全道一と評価されました。その熱心な取り組みから「亜麻幸作」と呼ばれ、約1ヘクタールの

山羊座 12/22～1/19
全体運 目標達成に向けてもうひと頑張りのとき。諦めずに続ければ成果が見えてきます。手抜きは禁物。時には遠回りも
健康運 血液がドロドロにならないよう食習慣を見直しましょう
幸運の食べ物 カボス

本別町内の亜麻工場（全景）

規模で栽培していたと伝えられています。

全道一の収量を誇る品種を生み出した本別工場は、地域経済を力強く支えました。しかし、亜麻が軍需作物としての性格を強めるにつれ、太平洋戦争時には主要産地として標的になるという、厳しい歴史にも直面することとなりました。

亜麻の種

亜麻工場を襲った悲劇

「工場には爆弾が3個落とされた。一つが住宅で3棟17戸が大破した。もう1個が工場の裏手に落ちた。木の下に逃げ、防空壕堀りをしていた弟・照治たちに爆弾の破片が落ちてきた。弟は右腕が破片で切断され、肋にも突き刺さって即死した」。亜麻工場に勤務していた毛利伝次郎氏の生々しい証言が、本別町歴史民俗資料館に展示されています。

証言の最後にはこう記されています。「今度空襲が来たら自分の番だと思いながら生活しているうちに終戦になり安心した。弟・照治はかわいそうなことをしたものだと思う」。

本別空襲は1945年7月15日、米軍機43機による銃爆撃を受け、死者40人、被災者1915人、全焼した家屋は279戸にのぼる未曾有の惨事となりました。2012年4月14日付の十勝毎日新聞では、江別市在住で戦争史を研究する西田秀子さんが、米軍資料をもとに本別空襲の背景を分析した内容が紹介されています。

西田さんは「本別が狙われたのは誤爆や偶然ではなく、亜麻工場が軍需工場として米軍の攻撃目標に挙げられていたため」と指摘。従来の「悪天候で帯広空襲を断念した結果の誤爆」という説を覆し、戦略的な攻撃だったと位置づける驚きの内容でした。

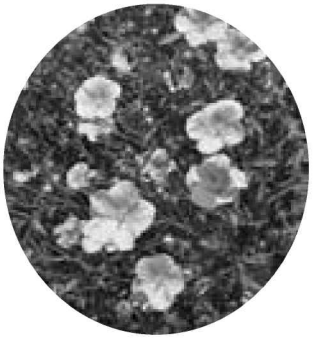
亜麻工場だけでなく、仙美里には軍馬養成を担う「軍馬補充部十勝支部」も存在しており、本別が軍事的に重要な拠点だったという説が有力視されています。

軍需作物として国に守られていた亜麻は、戦後その支えを失い、競争の波にさらされました。昭和63年には向陽町内会による亜麻植え活動の記録も残っていますが、やがて静かにその灯を消していきま

向陽町内会による収穫作業

全体運 味方もたくさんいますが敵も多い月。信頼できない人の話にうっかり乗らないで。厳しい助言に耳を傾ければ飛躍
健康運 カルシウムたっぷりの食事と筋トレで骨を丈夫に
幸運の食べ物 イチジク
水瓶座 1/20～2/18

す。そんな亜麻が、機能性作物として再び注目されるとは、当時誰も想像していなかったことでしょう。



亜麻は、薄紫色の可憐な花で、朝日とともに開花し、昼頃には散ってしまいます。（7月21日撮影）

「亜麻色」（薄茶色）の、乾燥した亜麻の実（8月27日撮影）

オメガ3に託した農業生産法人の挑戦

国内で流通するアマニオイルの約9割は、カナダなど海外産が占めています。アマニオイルに含まれるオメガ3脂肪酸（DHA、EPA、α－リノレン酸）は、機能性食材として女性やシニア層を中心に注目されており、希少な国産アマニオイルへの関心が高まりつつあります。

国内の主な産地は、石狩管内の当別町や士別市など、いずれも北海道勢です。その一角に加わろうとしているのが、本別町です。十勝ブランドとして亜麻の価値向上を目指し、2024年7月に生産者や民間企業の代表らが農業生産法人を設立しました。押帯地区の富川範己さんが代表取締役に就任し、勇足地区の山下健司さんが工場長を務めています。

富川さんはJA本別町の協力を得ながら、亜麻の量産化に取り組んでいます。今季の作付面積は前年より約30％増の2ヘクタールで、2トン以上の収穫を目指しています。

5月中旬の播種作業

亜麻の付加価値商品第1弾として登場したのが、（一社）帯広物産協会などと共同開発した「十勝農家の和風たまねぎドレッシング（亜麻仁油入り）」。8月末時点で累計出荷本数は8千本を超え、来季からは通年で1万本の出荷を目指しています。町内での販売先は道の駅ステラ★ほんべつ、セイコーマート本別北店、本別町観光物産センターです。その他、十勝管内の道の駅や帯広駅構内の「とかち物産センター」、音更町のスーパー「ハピオ」を中心に、札幌市内のお土産店や一部郵便局、新千歳空港国内線ターミナルなどへと販路を広げています。

来季からはJAの施設「新町ふれあいセンター」を活用し、亜麻の搾油設備を本格稼働させる予定です。これにより、亜麻の生産から加工、販売までを一元化する体制が整います。

富川さんは「本別になじみのある亜麻を十勝ブランドとして育て、再び輪作作物として取り入れてもらい、本別農家の収益作物なるよう力を入れていきたい」と語り、夢を膨らませています。

亜麻仁油入りのドレッシング

【予告】

次号では、本別町の中心で地域を見守ってきた当JAの旧本館についてご紹介します。

昭和43年に建てられ、本年4月に新本館事務所が完成したことで役目を終えた旧本館。本別農業の歩みとともに刻まれたその歴史や、皆さまの記憶に残るエピソードを振り返りながら、57年の軌跡をたどります。

どうぞお楽しみに。

魚座 2/19～3/20

全体運 あなたの力になってくれる人が現れます。感謝の気持ちを示して受け入れて。良いつながりができていきます

健康運 ダンスなどで楽しく体を動かしましょう

幸運の食べ物 リンゴ